

# 実習指導場面における 看護系大学の 新人教員が抱える困難感

亀田 芙蓉(日本医療科学大学)

いとう たけひこ(和光大学) [take@wako.ac.jp](mailto:take@wako.ac.jp)

河津 芳子(目白大学)

2017年8月18日(金)10:40～11:40

示説発表 10070

日本看護学教育学会 第27回学術集会

沖縄コンベンションセンター

# 問題：教育と臨床現場の違いとストレス

- 臨床現場では基礎知識や技術を応用して実践する。
- 実践経験での学びが、学生に教授する内容と異なることが多い。（臨床経験をそのまま看護教育に活用できない。）
- 困難感はストレス要因であり、適切に対処できない場合は身体的・精神的健康に影響を及ぼす恐れがある。

# 問題：身体的・精神的侵襲

- 困難感はストレス要因であり，適切に対処できない場合は身体的・精神的健康に影響を及ぼす恐れがある。

# 研究目的

新人教員が実習指導の場面において抱えている困難感を把握する。

## 倫理的配慮

- 本研究は、目白大学倫理審査委員会にて審査を受け承認を得た(承認番号: 16研-019)
- 研究依頼書に以下の内容を詳細に示した。
  - 匿名性を確保して学会等で発表する。
  - 本研究以外では使用しない。
  - 研究参加が自由意志であること。
  - 質問紙の保管や破棄の方法について。

# 用語の定義

1. **新人教員**: 初めて看護教員職に就いてから2年目の助教.
2. **困難**: 看護教員としての業務を遂行する中で、抱える悩みや不安、困ったことなど、業務遂行を妨げる、又は悪影響を及ぼす恐れがある状態のこと.
3. **困難感**: 困難を抱えた際に生じ、ストレス要因となる個人の主観的な思い、感情のこと.

# 研究方法1

- **対象者**

全国の看護系大学に勤務する教員歴2年目の助教

- **調査期間**

平成28年6月1日～平成28年9月30日まで

- **データ収集方法**

先行研究をもとに質問紙(属性, 実習指導で体験した困難について)を自作し、郵送調査を実施した。

質問紙の回答は無記名とし、回答は返信用封筒にて個別に郵送してもらった。

# 研究方法2

- 分析方法

質問紙の選択項目は、統計解析ソフトIBM SPSS Statistics 24を用いて分析を行った。

対象者はクラスタ分析によって困難の程度に対応した4群に分類され、平均値を分散分析した。事後テストにより、有意差が認められなかった困難の程度の高い2群を統合し、**困難低群** ( $N = 18, M = 1.11, SD = .323$ ) **困難中群** ( $N = 22, M = 1.77, SD = .429$ ) **困難高群** ( $N = 34, M = 2.36, 2.70, SD = .505, .635$ ) の合計3群に分類した(**困難度パターン**)。

困難と対応行動の自由記述内容を、Text Mining Studio 4.2にて分析した。

# 結果1

- **研究の承諾と質問紙の回収について**  
全国の国立・公立・私立すべての看護系大学250校へ研究協力依頼を送付し、64校(25.6%)より承諾が得られた。  
承諾の得られた大学の助教136名に、質問紙を配布、74名(回収率54.0%)より回答が得られた。



# 結果2:統計解析

表1:対象者の概要

表2:新人教員が抱えている困難の内容

表3~5:属性と5つの困難のクロス表

表6:困難度パターンと5つの困難のクロス表

表7:困難度パターンと臨床経験年数分類の  
クロス表

表1 対象者の概要

質問項目		n=74(%)
性別	女	59(79.7)
	男	15(20.3)
年齢	20代	7(9.5)
	30代	39(52.7)
	40代	21(28.4)
	50代	7(9.5)
	5年以下	14(18.9)
	6年以上10年以下	31(41.9)
臨床経験年数	11年以上15年以下	12(16.2)
	16年以上20年以下	10(13.5)
	21年以上	7(9.5)
	有り	24(32.4)
	無し	50(67.6)
TAの経験	他者からの勧め	12(16.2)
	教育への関心・意欲	38(51.4)
	臨床勤務の継続困難	24(32.4)
	専門学校	8(10.8)
看護学を学んだ最終学校	短大	11(14.9)
	大学	46(62.2)
	その他	8(10.8)
	回答なし	1(1.4)
	修士	56(75.7)
修士・博士の修得状況	博士	6(8.1)
	無し	12(16.2)
大学院での専攻内容	医療系	52(70.3)
	その他	6(8.1)
	在学中	3(4.1)
	回答なし	13(17.6)
看護教員養成講習等の受講	有り	7(9.5)
	無し	64(86.5)
	回答無し	3(4.1)
	2~3人	3(4.1)

表2 新人教員が抱えている困難の内容

困難の項目		n=74(%)
A 実習指導の方法に自信がない	1. 指導の方法そのものがわからない	19 (25.7)
	2. 学生のレベルに合わせた指導ができない	28 (37.8)
	3. 学生全員に公平に関わることができない	10 (13.5)
	4. 学生と適切な関係が築けない	3 (4.1)
	5. 自分の習得した知識や技術を生かせない	5 (6.8)
	6. その他	10 (13.5)
B 看護学生のもつ能力に対して、不安や戸惑いを感じる	1. 学生の社会性や意欲が乏しい	35 (47.3)
	2. 学生は他者との適切な関わりがわからない	11 (14.9)
	3. 学生が自分を客観的に評価できない	4 (5.4)
	4. 学生が精神的に弱い	11 (14.9)
	5. 学生だけでできるという思い込みが強い	2 (2.7)
	6. その他	3 (4.1)
C 臨床と連携がとれず、実習環境を調整できない	1. 指導者に実習方法や目的を理解してもらえない	10 (13.5)
	2. 実習指導現場に頼れる人がいない	5 (6.8)
	3. 学生が実習しやすい実習環境の調整が難しい	21 (28.4)
	4. その他	3 (4.1)
D 臨床指導者の理解・協力が得られず、関係性が築けない	1. 臨床看護師から批判的にみられていると感じる	10 (13.5)
	2. 臨床看護師に意見が言えない	2 (2.7)
	3. 臨床看護師が学生に高いレベルを求めてくる	10 (13.5)
	4. その他	6 (8.1)
E 職場環境や人間関係、業務内容などで余裕がなくなる	1. 他の業務との調整が難しい	25 (33.8)
	2. 時間に追われて余裕がなくなる	28 (37.8)
	3. 気持ちの切り替えができない	4 (5.4)
	4. 上司に実習指導の大変さを理解してもらえない	3 (4.1)
	5. その他	3 (4.1)

表3 属性（性別）と5つの困難のクロス表

		性別		合計	
		1. 女性	2. 男性		
A 指導方法が わからない	はい	n(%) 50(80.6)	12(19.4)	62(100)	
	いいえ	調整済み残差	0.4	-0.4	
		n(%)	9(75)	3(25)	12(100)
		調整済み残差	-0.4	0.4	
B 学生の能力に 不安・戸惑いがある	はい	n(%) 40(78.4)	11(21.6)	51(100)	
	いいえ	調整済み残差	-0.4	0.4	
		n(%)	19(82.6)	4(17.4)	23(100)
		調整済み残差	0.4	-0.4	
C 指導環境を 調整できない	はい	n(%) 26(74.3)	9(25.7)	35(100)	
	いいえ	調整済み残差	-1.1	1.1	
		n(%)	33(84.6)	6(15.4)	39(100)
		調整済み残差	1.1	-1.1	
D 指導者と 関係性が 築けない	はい	n(%) 17(73.9)	6(26.1)	23(100)	
	いいえ	調整済み残差	-0.8	0.8	
		n(%)	42(82.4)	9(17.6)	51(100)
		調整済み残差	0.8	-0.8	
E 業務環境、 人間関係などで 余裕がない	はい	n(%) 38(73.1)	14(26.9)*	52(100)	
	いいえ	調整済み残差	-2.2	2.2	
		n(%)	21(95.5)	1(4.5)	22(100)
		調整済み残差	2.2	-2.2	
合計	n(%)	59(79.7)	15(20.3)	74(100)	

\*p<0.05

表4 属性（臨床経験年数）と5つの困難のクロス表

		臨床経験年数					合計
		5年以下	6年以上 10年以下	11年以上 15年以下	15年以上 20年以下	21年以上	
		n(%)	12(19.4)	26(41.9)	10(16.1)	9(14.5)	
A 指導方法が わからない	はい	0.2	0	0	0.6	-0.9	
	いいえ	2(16.7)	5(41.7)	2(16.7)	1(8.3)	2(16.7)	12(100)
B 学生の能力に 不安・戸惑いがある	はい	-0.2	0	0	-0.6	0.9	
	いいえ	9(17.6)	24(47.1)	6(11.8)	9(17.6)	3(5.9)	51(100)
C 指導環境を 調整できない	はい	-0.4	1.3	-1.5	1.5	-1.6	
	いいえ	5(21.7)	7(30.4)	6(26.1)	1(4.3)	4(17.4)	23(100)
D 指導者と 関係性が 築けない	はい	0.4	-1.3	1.5	-1.5	1.6	
	いいえ	8(22.9)	15(42.9)	8(22.9)	0	4(11.4)	35(100)
E 業務環境、 人間関係などで 余裕がない	はい	0.8	0.2	1.5	-3.2	0.5	
	いいえ	6(15.4)	16(41)	4(10.3)	10(25.6)*	3(7.7)	39(100)
合計	はい	-0.8	-0.2	-1.5	3.2	-0.5	
	いいえ	5(21.7)	9(39.1)	6(26.1)	0	3(13)	23(100)
	はい	0.4	-0.3	1.5	-2.3	0.7	
	いいえ	9(17.6)	22(43.1)	6(11.8)	10(19.6)	4(7.8)	51(100)
	はい	-0.4	0.3	-1.5	2.3	-0.7	
	いいえ	9(17.3)	25(48.1)	7(13.5)	5(9.6)	6(11.5)	52(100)
	はい	-0.5	1.7	-1	-1.5	0.9	
	いいえ	5(22.7)	6(27.3)	5(22.7)	5(22.7)	1(4.5)	22(100)
	はい	0.5	-1.7	1	1.5	-0.9	
	いいえ	14(18.9)	31(41.9)	12(16.2)	10(13.5)	7(9.5)	74(100)

\*p<0.05

表5 属性（教員になるきっかけ）と5つの困難のクロス表

			教員になるきっかけ			合計
			他者からの 勧め	教育への 関心・意欲	臨床勤務の 継続困難	
A 指導方法が わからない	はい	n (%)	3(25)	5(41.7)	4(33.3)	12(100)
		調整済み残差	0.9	-0.7	0.1	
	いいえ	n (%)	9(14.5)	33(53.2)	20(32.3)	62(100)
		調整済み残差	-0.9	0.7	-0.1	
B 学生の能力に 不安・戸惑いがある	はい	n (%)	12(23.5)*	24(47.1)	15(29.4)	51(100)
		調整済み残差	2.5	-1.1	-0.8	
	いいえ	n (%)	0	14(60.9)	9(39.1)	23(100)
		調整済み残差	-2.5	1.1	0.8	
C 指導環境を 調整できない	はい	n (%)	3(8.6)	23(65.7)*	9(25.7)	35(100)
		調整済み残差	-1.7	2.3	-1.2	
	いいえ	n (%)	9(23.1)	15(38.5)	15(38.5)	39(100)
		調整済み残差	1.7	-2.3	1.2	
D 指導者と 関係性が 築けない	はい	n (%)	3(13)	12(52.2)	8(34.8)	23(100)
		調整済み残差	-0.5	0.1	0.3	
	いいえ	n (%)	9(17.6)	26(51)	16(31.4)	51(100)
		調整済み残差	0.5	-0.1	-0.3	
E 業務環境、 人間関係などで 余裕がない	はい	n (%)	10(19.2)	24(46.2)	18(34.6)	52(100)
		調整済み残差	1.1	-1.4	0.6	
	いいえ	n (%)	2(9.1)	14(63.6)	6(27.3)	22(100)
		調整済み残差	-1.1	1.4	-0.6	
合計	n (%)	12(16.2)	38(51.4)	24(32.4)	74(100)	

\*p<0.05

表6 困難度パターンと5つの困難のクロス表

		困難度			合計
		低群	中群	高群	
A指導方法がわからない	はい	度数 10	22	30	62
		総和の % 13.5%	29.7%	40.5%	83.8%
		調整済み残差 -3.7*	2.5*	1.0	
	いいえ	度数 8	0	4	12
		総和の % 10.8%	0.0%	5.4%	16.2%
		調整済み残差 3.7	-2.5	-1.0	
B学生の能力に不安・戸惑いがある	はい	度数 13	17	21	51
		総和の % 17.6%	23.0%	28.4%	68.9%
		調整済み残差 .3	1.0	-1.2	
	いいえ	度数 5	5	13	23
		総和の % 6.8%	6.8%	17.6%	31.1%
		調整済み残差 -1.3	-1.0	1.2	
C指導環境を調整できない	はい	度数 2	0	33	35
		総和の % 2.7%	0.0%	44.6%	47.3%
		調整済み残差 -3.5*	-5.3*	7.9*	
	いいえ	度数 16	22	1	39
		総和の % 21.6%	29.7%	1.4%	52.7%
		調整済み残差 3.5	5.3	-7.9	
D指導者と関係性が築けない	はい	度数 1	0	22	23
		総和の % 1.4%	0.0%	29.7%	31.1%
		調整済み残差 -2.7*	-3.8*	5.8*	
	いいえ	度数 17	22	12	51
		総和の % 23.0%	29.7%	16.2%	68.9%
		調整済み残差 2.7	3.8	-5.8	
E業務環境、人間関係などで余裕がない	はい	度数 4	22	26	52
		総和の % 5.4%	29.7%	35.1%	70.3%
		調整済み残差 -5.1*	3.6*	1.1	
	いいえ	度数 14	0	8	22
		総和の % 18.9%	0.0%	10.8%	29.7%
		調整済み残差 5.1	-3.6	-1.1	

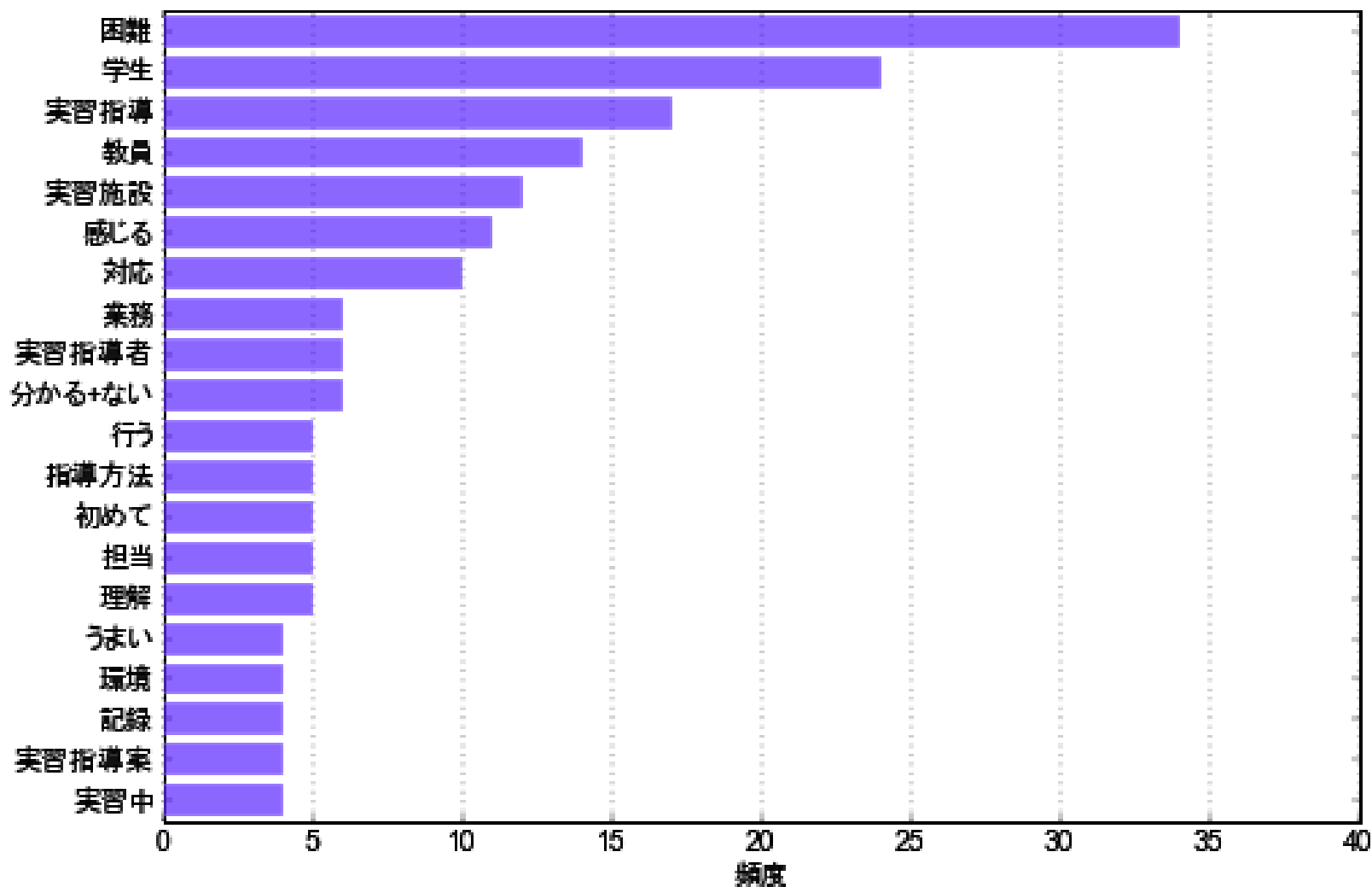
\* p < 0.05

表7 困難度パターン と 臨床経験年数分類 のクロス表

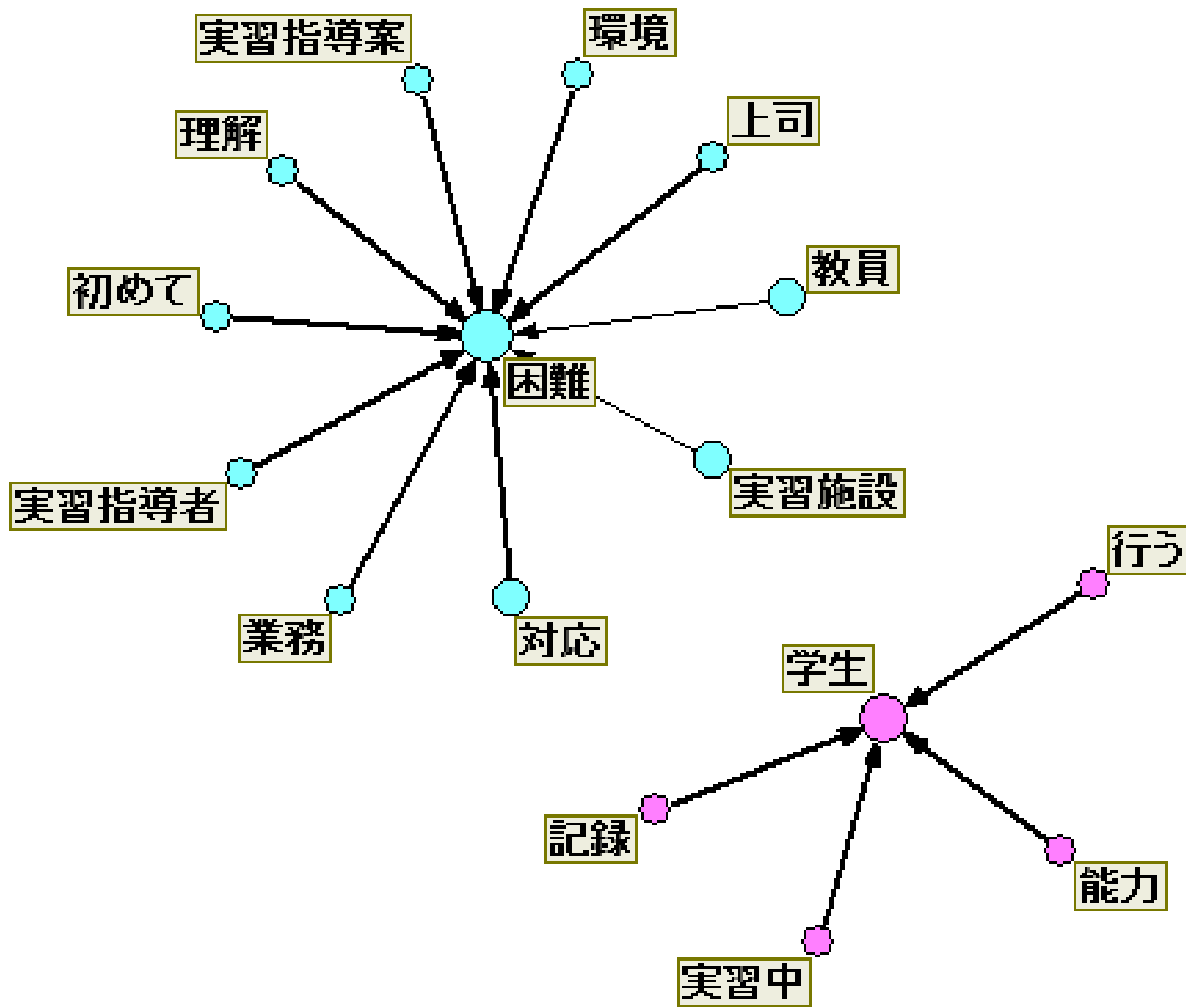
			臨床経験年数分類					合計
			5年以下	6年以上 10年以下	11年以上 15年以下	15年以上 20年以下	21年以上	
困難度	低群	度数	4	5	2	5	2	18
		総和の %	5.4%	6.8%	2.7%	6.8%	2.7%	24.3%
		調整済み残差	.4	-1.4	-.7	2.0*	.3	
	中群	度数	3	12	1	5	1	22
		総和の %	4.1%	16.2%	1.4%	6.8%	1.4%	29.7%
		調整済み残差	-.8	1.4	-1.8	1.5	-.9	
	高群	度数	7	14	9	0	4	34
		総和の %	9.5%	18.9%	12.2%	0.0%	5.4%	45.9%
		調整済み残差	.3	-.1	2.2*	-3.1*	.6	
合計		度数	14	31	12	10	7	74
		総和の %	18.9%	41.9%	16.2%	13.5%	9.5%	100%



# 結果3: 単語頻度解析



# 結果4:ことばネットワーク解析1





# 考察1

- 新人教員は困難の程度で3つのタイプに分けることができた。
- 困難低群・中群では抱えている困難が教員自身の能力や学生についてであり、困難感の解消には自助努力の必要性が考えられた。
- そのためには、実習指導及び、研究・研修するための時間的保障が重要である。

# 考察2

- 困難高群では、臨地実習現場に対する困難が多く、個人では対応できない困難でもある。
- そのため、上司からのサポートに加え、教員同士のチームワークの形成など組織的な介入の必要性が示唆された。

# 謝辞

本研究にご協力頂きました看護系大学  
新人教員の皆様に心より感謝を申し上げます。